

# 日常生活の足としての 新幹線の利用実態

## 【概要】

新幹線はわが国の地域間交通を担い、国土の骨格を形作るための主な高速交通機関であるため、利用実態の分析は地域間（県間）における利用需要を中心に進められてきました。一方で、新幹線が通勤や買物等に日常的に利用される地域の足として定着する事例も報告されていますが、その実態は必ずしも明らかになっていませんでした。そこで本研究では、ある地方の拠点駅で新幹線をご利用のお客様を対象としたアンケート調査を実施し、利用実態の特徴に関する分析を行いました。

## 【主な特徴】

### ○全般

- ・ 地域内移動（県内移動）旅客が全体の3割程度存在します。
- ・ 地域内移動（県内移動）で多い移動目的は「通勤」「通学」「買物」などの生活に密着した行動目的です。

### ○通勤利用

- ・ 通勤目的旅客の7割程度が「新幹線定期券」を利用しています。
- ・ 県外からの通勤旅客が通勤旅客全体の3割程度存在しています。

### ○利用意向・頻度（誘発需要）

- ・ 新幹線が存在しなかったと仮定した場合、買物・遊び目的で「移動自体を取りやめる」意向が観測されました。
- ・ 新幹線の開業前後で、ある隣接駅間では在来線利用時よりも平均6回／年程度、利用頻度が増加しています。

## 【本調査の効果】

本調査の結果、新幹線は地域間交通のみならず、地域内の生活に密着した交通をも担っている実態が明らかとなりました。このように取得したデータをさらに分析することにより、短距離利用者向けの旅客サービス施策の検討等に資すると考えられます。

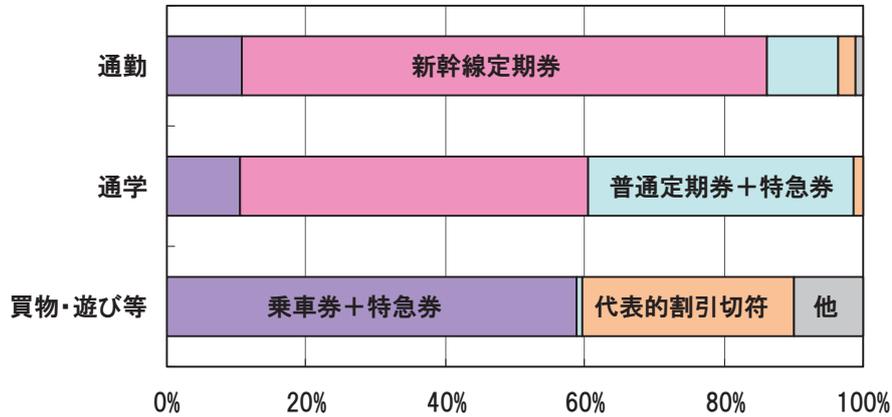


図1 移動目的別の利用券種(地域内移動)

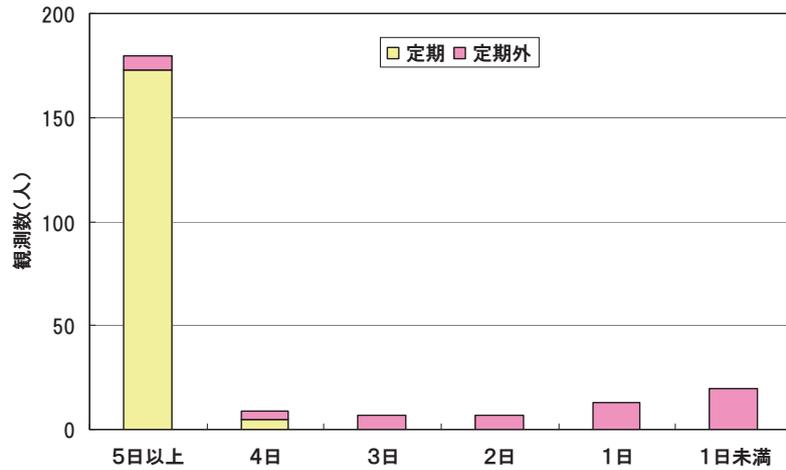


図2 通勤で新幹線を利用する頻度(自宅→就業地)

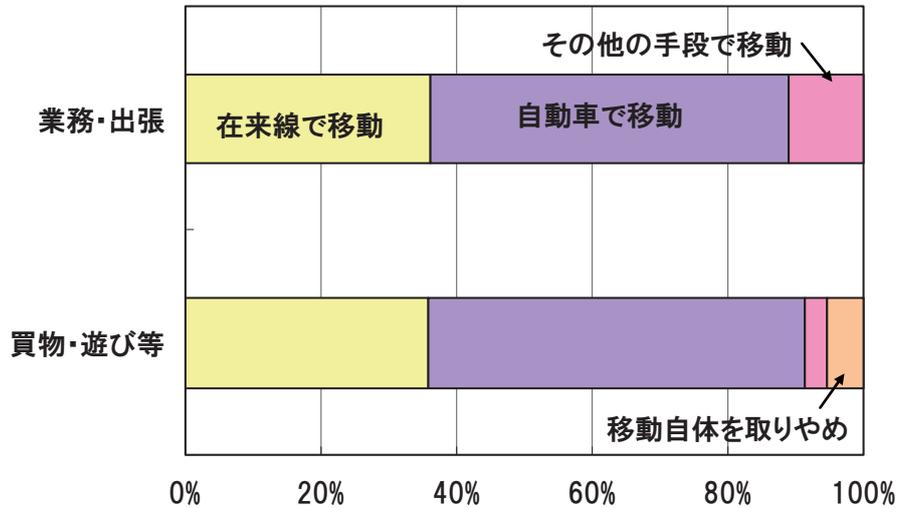


図3 新幹線が存在しない場合の行動意向(地域内移動)